

公定歩合引下げに関する政策委員会議長談

(昭和61年1月29日)

最近の経済情勢をみると、物価は引続き安定基調にある一方、景気の拡大テンポは昨年来鈍化してきている。また、国際収支面では経常収支が黒字を続けている。この間、為替市場においては、昨秋来の円高基調が次第に定着してきていると判断される。

以上のような情勢に鑑み、日本銀行は本日公定歩合を0.5%引下げ、明30日から実施することとした。同時に、預貯金等の金利の最高限度変更につき大蔵大臣の発議を受け、金利調整審議会に諮問した。

今回の措置は、金利の低下を通じて内需の拡大を促し、対外不均衡の是正に資することが期待されるが、日本銀行としては、今後の政策運営に当っては、引続き為替相場の動向に十分注意を払っていく方針である。

以上

日本銀行基準割引歩合および基準貸付利子歩合の変更

(昭和61年1月30日実施)

1. 商業手形割引歩合ならびに国債、
特に指定する債券または商業手形
に準ずる手形を担保とする貸付利
子歩合 年4.5% (0.5%引下げ)
2. その他のものを担保とする貸付利
子歩合 年4.75% (0.5%引下げ)